

# 花と緑の銀行だより

195号 2015.5



タイトル：「東橋と桜」

撮影場所：内川（射水市）

## 目次

- ・花と緑の提言〈「射水市の花と緑のまちづくりについて」(射水支店)〉……………2
- ・活動事例〈「花のまちづくりでひとつになる」南砺市を目指して」(南砺支店)〉…3
- ・技術講座〈魅力的な花壇づくり1〉……………4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②〉……………5
- ・緑づくりコーナー〈庭木に利用する樹種の特徴と管理—ヤマブキ—〉……………6
- ・この人あり〈「神社旧跡に花壇を設置」(魚津支店)〉……………7
- ・情報コーナー〈平成27年度花のまちづくりコンクール、花しょうぶ祭り〉……………7



## 射水市の花と緑のまちづくりについて

花と緑の銀行射水支店事務局長

射水市農林水産課 課長 **竹内美樹**

射水市は、環日本海交流拠点である富山県のほぼ中央に位置しており、コンパクトな市域に、港湾、工業地、商業地、高等教育機関など、様々な機能を持つ魅力ある資源が集積し、さらに「海、川、野、そして里山」という豊かな自然を有しています。

その本市の特性を生かし「豊かな自然 あふれる笑顔 みんなで創る きららか射水（いみず）」をスローガンに合併以来、着実にまちづくりを進めて参りました。

今年度は、市制10周年という大きな節目を迎え、4月には大規模コールセンターの開設、8月には大型会員制倉庫店の開業、そして10月には、全国豊かな海づくり大会が開催されるなど市政の発展に大きく貢献する事業が目白押しとなっています。

現在、本市の花と緑のまちづくりについては、花と緑の銀行射水支店に旧市町村単位で支所を設け、27地方銀行、頭取・グリーンキーパー合わせて124名が各地域の実情に合わせた活動に努めています。

そうした日頃のたゆまぬ努力の結果、県の花のまちづくりコンクール『一般花壇の部』で平成22年、24年、26年、また、『幼稚園・保育所花壇の部』で平成20年、21年と最優秀賞を受賞するなど上位入賞する団体を数多く輩出するまでになりました。

その中でも、「小杉花作り同好会」「浅井ひとみさん」の花壇においてはともに9年連続で県の推奨花壇五つ星認定を受けておられ、各種団体や企業などの視察・見学が絶えない、県下を代表する花壇となっています。

このように、本市支店には、すばらしい技術をもった頭取・グリーンキーパーがたくさんおられるので、今後は、その技術が本市全域に広がるよう各地方銀行が連携や情報交換をしやすいように研修や会議等の事業を展開して参りたいと考えております。

また、平成28年度に完成予定の新庁舎の開庁に伴い支店事業の活動の在り方を再検討する必要があり、現在、合併前の旧市町村ごとで設けていた支所等の組織や予算、事業を再編することで各地方銀行がより地域の実情に応じた活動を行政と一体となって取り組める環境の整備に努めてまいります。



花づくりは世代間の交流や住民同士の連携、情操教育の推進といった花の社会性に大きな効果があると言われております。

本市支店におきましては、この花の社会性をまちづくりに生かす活動を支店会員の皆様や市民のご意見に耳を傾けながら今後も一体となって進めてまいりたいと考えておりますので一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、公益財団法人花と緑の銀行の今後ますますのご発展と、関係の皆様の一層のご活躍を心からご祈念申し上げます。

# 『花のまちづくりでひとつになる南砺市』を目指して

## 第24回全国花のまちづくりコンクール

**市町村部門** 南砺市 花のまちづくり大賞(農林水産大臣賞) 受賞報告

花と緑の銀行 南砺支店

### 1. 市の概要

平成16年11月1日に8町村(城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町)が合併し、「南砺市」が誕生しました。山間部には、世界遺産に登録された「五箇山合掌造り集落」があり、平野部では、緑豊かな美しい散居村が広がり、それぞれの地域で受け継がれてきた伝統と文化を守り続けています。

### 2. 花のまちづくりにおける主な活動内容

「自然に優しいまちづくり」を目標に「花と緑の推進」に市民と行政の「市民協働」で取り組み、花のまちづくりによる地域連携で、住みよいまちづくりを目指しています。

#### (1) 世界遺産「合掌集落」を花で飾るおもてなし (花いっぱいまちづくり事業)

##### ① 景観を活かす合掌集落の花飾り

平成7年に五箇山合掌造り集落(菅沼・相倉)は、岐阜県白川郷とともに、ユネスコの世界遺産に登録されました。県外・海外のアジア方面からの観光客も年々増え、北陸新幹線の開業に伴い、平成24年度から「花いっぱいまちづくり事業」をはじめました。世界遺産登録となると、景観に配慮すべき制限等が多く、合掌集落の景観を再認識する必要性がありました。そこで、岐阜県中津川市への視察研修で、「中山道こまちの会」の取り組み状況等について伺いました。また、寄せ植えや華道の師範の方に現地に来てもらう等、数回の検討会を行いました。さらに、景観との調和がとれた花台・プランター等の設置や市内の間伐材の再利用、流木の利用等、景観を活かす花飾りを工夫しました。

##### ② 駅、高速道路IC周辺の花飾りでのおもてなし

駅や高速道路を利用して、観光客を花でおもてなしをしようと、駅前やホームの中に、ハンギングバスケット等を設置しました。市内の生産者が作った花苗を使用することにより、生産者との相乗効果も高めています。



#### (2) 「花壇コンクール」がつなぐ花づくりの交流

花と緑にあふれた豊かな地域づくりをめざし、地域の花壇づくりを推進するために「花壇コンクール」を行っています。旧町村→南砺市→県の3段階での審査会を実施し、この、花壇コンクールをとおして、花と緑の共通の話題が生まれるなど、地域間の交流が盛んに行われています。

また、市内の花壇をオープンガーデンにすることにより花づくりを通じての交流促進・連携をとっています。保育園や児童会と花壇づくりを行っている地域も

増え、将来を担う子供達にとっては、花壇づくりをとおして、地域の人たちとのふれあいを大切に、また、花にひとつひとつ命があるということを知る、「花育」へとつながっています。



#### (3) 花のまつりが広げる花と緑の輪

南砺市では、花と緑の専門施設として「園芸植物園」と「いのくち椿館」の2つの施設があります。スプレー菊を専門として、花と緑が身近に楽しめる「園芸植物園」、そして、椿の研究と保存を目的に国内外の椿が展示されている「いのくち椿館」。それぞれの施設の特徴を活かしたイベントとして、「南砺花と緑のフェスティバル」「南砺菊まつり」「南砺いのくち椿まつり」を開催することにより、地域振興と新たな花の文化の創造や定着に務めています。これらのイベントは市民のボランティアが主体となって、企画運営を行っており、市民ボランティアの一体感が生まれています。

#### 【花のまちづくり活動の成果】

世界遺産合掌集落をはじめとして、多くの観光拠点や駅前等を花いっばいにしたおもてなしにより、地域住民の花と緑に係わる活動が活発になりました。また、花壇コンクールをとおして、花壇の栽培技術の向上と地域との相互の連携が取れ、住民参加によるイベントを開催することにより、地域の発展と花と緑に関する関心が増えてきています。市民の目線で「花で何かできないか」等の声が多くなり、積極的に動き出してくれる市民が増えて、住みよいまちづくりへとつながっているように思います。

#### 【今後の展開】

市民の方々が心の底から、「このまちに生まれてきてよかった」、「住んでよかった」、「これからも住み続けたい」と感じていただけるためにも、花と緑を通じて、市民協働で「花のまちづくり」でひとつになる南砺市を目指しています。市民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、人と人とのふれあいと生活の豊かさを実感できるまち「南砺市」を築くことが大切です。そのためにも、今後とも市民団体・町内会・企業・学校等と行政による花と緑に関するネットワークづくりが必要であり、市民協働による花のまちづくりを目指していきます。

#### 【審査講評】全国花のまちづくりコンクール

審査委員長 比嘉昭夫

富山県では(公財)花と緑の銀行と県内市町村が、密に連携した花のまちづくりが展開されています。大賞の「南砺市」では、さらに2つの市立植物園が軸となり、市民主体のイベントによって住民、学校、企業、行政が有機的に結ばれ、市民協働による花のまちづくりが定着しています。

(平成26年度 花のまちづくり優秀事例発表会)

# 花壇のできばえを一手間でグレードアップ

花と緑の銀行 普及研修部

今、まさに春の盛り、花壇作業には絶好の季節となってきました。今年の花壇づくりもいよいよ植え付けの時期を迎えようとしています。

冬の間じっくり考えた花壇のテーマやデザイン、そして、それを表すために選びに選び抜いた花々など、十分に植え付けの準備ができていることと思います。

ただし、植え付けの前には花壇の土づくりが必ず必要です。30cm以上深く耕した土にたっぷりと腐葉土や完熟堆肥を入れ、ふっかふかの土に仕上げしておく事が大切です。また、土壌のpHも確認し、pH6.0～6.5程度の弱酸性に調整しておく、多くの花が順調に育ちます。土づくり作業は植え付けの2週間前までに終えておいて下さい。

## 1. 植え付けの時に管理用の通路を設ける！

花壇に苗を植え付ける時に、管理用の通路を設けておくことがとても大切です。ついつい、準備した苗を花壇いっぱいに植えてしまいがちですが、管理の際に株基を踏みつけて花の生育を悪くしたり、思うところに手が届かなかったり、花壇管理の期間中、ずっと苦労することになります。

そこで、まず、準備した苗をデザインに合わせて、ポットのまま土の上に置いてみます。全体のバランスを見ながら、苗の植え付け場所を調整し、10～20ポットを1グループにまとめ、その間に幅30cm程度の管理用の通路を作っておきます（写真1）。



写真1 作業をしやすくする管理通路の設置

花壇管理をする時はこの通路を使い、花の株基や根が伸びている周辺の土を踏みつけないようにすることが大切です。

また、管理通路を作る時の土をマウンド状に盛り上げておけば、排水も良くなり、花も元気に育ちます。さらに、花と花とがくっつかないので、デザインをクッキリ鮮明にする効果もあります（写真2）。



写真2 管理通路の設置でデザインもきりとした花壇



写真4 腐葉土や完熟堆肥のマルチ



写真5 マルチでグレードアップした花壇

## 2. 土の流出を防ぐ工夫！

平成26年度花のまちづくりコンクール一般花壇の部で最優秀賞に輝いた「黒河地域振興会」の花壇を見ると、花壇の前面からは見えにくいのですが、中央部には白い玉石を敷き詰めた管理通路が設置されていました。また、タマリユウが花壇の縁に整然と切れ目無く植えられていました（写真3）。

タマリユウの効果としては、①花の株基を引き締める、②花の無いときでも濃い緑を保つ、③強雨や灌水の際の土の流出を防ぐ、などがあり、気配りの行き届いた高度な管理技術を学ばせていただきました。

タマリユウのほかにも、丈の低いグランドカバープランツやカラーリーフを活用するのもおもしろいと思います。



写真3 花壇の縁に植えられたタマリユウ  
（射水市 H26黒河地域振興会の花壇）

## 3. 腐葉土や完熟堆肥のマルチで雑草防除！

苗を植え付けて1ヶ月程度経過し、生育も安定した頃、株と株の間に腐葉土や完熟堆肥を厚さ5cm程度マルチします（写真4）。これで、雑草の発生をかなり抑えることができます。また、晴天続きでも急激な乾燥を防いでくれます。さらに、マルチされた花壇は、土の表面が黒くカバーされて、花が浮き立ち、1ランクも2ランクもグレードアップします（写真5）。秋にそのまま鋤き込めば、土づくりにもつながります。

たまに、黒いビニールでマルチされた花壇を見かけることがあります。雑草防除とともに春先の寒い時には保温効果も期待できますが、夏になると地温が上がり過ぎて根を傷めてしまいます。また、せつかくきれいな花が咲いているのに、ビニールが見えるとちょっとがっかりしてしまいます。

是非、腐葉土や完熟堆肥のマルチに切り替えてみてください。

## 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②〇

### ヘスペリス・マトロナリス

職藝学院

教授 渡邊美保子

ヘスペリス・マトロナリスは、アブラナ科の寒さに強い宿根草です。5月になると、原産地のヨーロッパでは、道沿いや、林を縁取るように咲き乱れます。日本では、5月に開花した後に夏の暑さで枯れてしまうことがあるため、一年草として扱われていますが、富山では、植えつけてから数年間は花壇で楽しむことができます。一年草のムラサキハナナ（ショカツサイ）によく似た花を咲かせます。

ヘスペリスは4枚の花弁を持ち、小花がたくさん集まって群れるように咲きます。花茎はよく枝分かれして、その先に花を咲かせるためです。花の咲き方は葉の花によく似ていますが、花の色は、白、淡い紫色から濃い紫色まであります。花には、甘い匂いがあります。夕方になるとその香は一層強くなり、まったりと、まとわりつくような香りに変わります。ヘスペリスの草丈は70~90cmで、花壇の後方に植栽するとよく目立ちます。5月に咲く宿根草で、草丈の高い種類は少ないため、とても重宝します（写真1）。



写真1：ヘスペリス・マトロナリス  
草丈70~90cm 5月中旬

植栽する場所は、日当たりが良く、有機質に富んだ水はけのよい花壇をおすすめします。何年も咲かせたい人は、秋に2年ほど熟成させた牛糞堆肥を、株のまわりの土の上に10cmほどの厚みでかぶせるとよいでしょう。富山では寿命の短い宿根草ですが、この作業をすると、少し寿命が延びるようです。ヨーロッパでは野草なので、こぼれ種で増えてしまうのですが、富山ではこぼれ種でどんどん増えるということはないようです。一株のヘスペリスから大量の種がとれます。消えたときに備えて春に種をまいて苗を仕立てておき、秋に植えると翌年の春までにしっかりとした株に育ち

ます。花壇に植栽する時は、色が少しずつ違う紫色系統の花色を組みあわせるときれいです（写真2）。



写真2：ヘスペリスの紫色系統の花色

組み合わせは、黄色や赤黒く光沢のある葉を持つものを隣合わせにするとお互いに引き立ちます。低木では、黄色の葉をもつシモツケの矮性品種ゴールドフレーム、宿根草では、銅葉のガウラの矮性品種や紅紫色の小花が空中を浮いているように咲くベニカノコソウ、また、一年草では、レースのような白い花を咲かせるオルレア、やわらかな印象の赤色のアイスランドポピーなどをおすすめします（写真3）。



写真3：ヘスペリス（花壇後方）とシモツケ、ガウラ、レッドバレリアン、オルレア、ポピー等の組合せ（富山県総合運動公園。5月中旬）

宿根草の庭をデザインする際、命の短い宿根草とゆっくり成長する寿命の長い宿根草を隣同士に植えることがあります。例えば、成長がゆっくりで3年ほどかけて本来の大きさになるような宿根草の隣に、成長が早く数年で消えてゆく宿根草を組み合わせます。この手法は、植えられた植物にとってお互いの成長を妨げないような無理のない組み合わせになります。のんびりと成長して大きくなってゆく宿根草の隣に植えるには、ヘスペリスは、まさに最適な宿根草です。

# 庭木に利用する樹種の特徴と管理ーヤマブキー

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

4～5月頃、新葉とともに黄色い花をたくさん咲かせる樹木があります。これは、古くから日本人に愛されてきた花木の一つであり、ヤマブキと言います（図1）。今回はこの花木を紹介します。

## 1. 特徴

バラ科ヤマブキ属の落葉低木です。この属にはヤマブキだけが含まれる一属一種です。北海道から九州まで分布しており、低い山の明るい林の木陰などに群生しています。枝は細くて柔らかく、背丈は1～2mで、株立ちするという特徴があります。明るい黄色の花を小枝の先端につけます（図2）。花びらは5枚で一重ですが（図3）、八重咲きの園芸品種、ヤエヤマブキもあります。これはヤマブキより少し遅れて咲きます。

## 2. 維持管理

樹形は自然にまとまっていきますので、むやみに枝を切る必要はありません。植えてからだいたい5年くらい経過すると古い枝の勢いは弱ってきますので、そのような枝は根元から10cmほど残して切り落とし、若い枝の生長を促します。その他は、混み合った部分の小枝や枯れた枝を刈り込む程度にして、全体をばっさりと刈り込まないようにしましょう。翌春に咲く花芽は前年の夏に形成されますので、その後に枝を切ると花芽を切り取ってしまうこととなりますので、翌年には花が咲きません。注意してください。

この樹木は、自然の状態では木漏れ日が差すような場所で、湿度の比較的高い沢沿いなどに自生していることから、あまり日射しの強い場所好みません。そのため、庭に植える場合は西日や直射日光の当たるような場所を避け、半日陰で、肥沃で、適度に湿っている場所に植えるようにしましょう。庭の土壤がやせているような場合には、土壤改良を行ってから植栽してください。寒さには強く霜に当たっても枯れることはありませんので、防寒対策をする必要はありません。

なお、ヤマブキによく似た花木にシロヤマブキがあります。この花木も庭木として利用されてい

ます。ヤマブキと異なる点は、花びらが4枚で純白であることと、ヤマブキ属ではなくシロヤマブキ属であることです。



図1 ヤマブキ (2013. 4. 12に撮影)



図2 開花間近のヤマブキの蕾 (2012. 4. 19に撮影)



図3 ヤマブキの花 (2011. 4. 26に撮影)

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



## 神社旧跡に花壇を設置

花と緑の銀行魚津支店

加積地方銀行 頭取 野村 文夫

魚津市で最も歴史が古いといわれる延喜式内社「建石勝神社」が戦国時代に焼払われ移転した。その跡地が当地区にあり一部が放置されていた。

そこには邪悪を避けると信じられた榎の大木が、腐食が進んだまま残っており、枝が落下したりと危険なので、伐採しきれいにすることが地域で望まれていた。

そこで、平成24年加積地域振興会と花と緑の銀行メンバーが中心となり神社旧跡を整備し花壇を設置することにした。

平成25年春に整地をし、榎の切株と神社のものと思われる大きな石3個を残し、それらを囲むように四角形（約65㎡）の花壇を造成し、「建石勝神社跡地花壇」と名付けた。

間伐材で立体的な枠組みを作り、ツツジ、ドウダン、ツバキ、ナンテン、アジサイ等の樹木や宿根草を植込み花壇らしくした。

また同年7月、花づくりの好きな人や近所の人々に呼びかけ、二十数名が集まってサルビアやマリーゴールド、ペチュニア等数種類の一年草を植込

んで、みんなで喜び合った。

市民や通行人に親しまれる憩いの場所としての花壇にしたいと、グリーンキーパーと付近の自治会役員が地域住民に呼びかけて、「花と緑の愛好会」を結成し花壇の世話を続けている。

平成25年秋には、加積公民館と花と緑の銀行共催「花壇づくり教室」を開催し多数の参加を得て花壇づくり体験を行った。

今後も、花と緑の愛好会仲間の輪が広がることを願って、数か所の花壇の世話を楽しんでいきたい。



写真1 「建石勝神社」跡の花壇整備



写真2 花と緑の愛好会花壇

### 〈情報コーナー〉

#### 平成27年度花と緑のコンクール実施予定

コンクール名	応募締切	審査日
富山県花のまちづくりコンクール		
幼稚園・保育所花壇部門	7月 8日(水)	7月16日(木)~7月17日(金)
花の道部門	7月15日(水)	7月23日(木)~7月24日(金)
学校花壇部門	7月22日(水)	7月30日(木)~7月31日(金)
一般花壇部門	7月29日(水)	8月 5日(水)~8月 7日(金)
花と緑の標語コンクール	7月31日(金)	8月下旬
花と緑のポスター原画コンクール	9月11日(金)	9月中旬

#### 花しょうぶ祭りの開催について

県民公園頼成の森に親しんでいただくことを目的に、今年は第30回を記念して期間を7日間延長し、6月12日（金）～6月28日（日）の17日間、「第30回頼成の森しょうぶ祭り」が開催されます。

詳細はホームページ等でお知らせいたします。



平成26年度 コンテナガーデン大賞  
「医王の春」  
(南砺市福光地域花と緑推進協議会)



平成26年度 わたしの寄せ植え 第1位  
【春だ新幹線だ ファボーレに私の寄せ植えを見に行こう!】  
(富山市 山本 俊雄氏)

表紙写真：タイトル：「東橋と桜」 撮影場所 内川（射水市）  
裏表紙写真：「木漏れ日に咲くハナイカダ-5月中旬、南砺市赤祖父山にて」・・写真提供 長谷川 幹夫氏



「木漏れ日に咲くハナイカダー5月中旬、南砺市赤祖父山にて」



**花と緑の銀行だより 195号**

発行日 平成27年5月

編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

**富山県中央植物園**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

**県民公園頼成の森**

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。